

神戸のディテール

Detail of KOBE

〈30〉

石阪 春生

写真／杉尾友士郎







POETIQUE

ROSE
まさ

- 神戸・サンプラザ
- 神戸・さんちか
- 阪急ファイブ
- 千里 ■ 宝塚
- 泉北 ■ 高槻

★
こころの宝石を大切に……

TAKATA JEWEL



シリーズⅦ《この1品》

PMエメラルド ダイヤモンドネックレス



トア・ロード

タカタ宝石

〒650

神戸市生田区北長狭通2-161-1

tel 078・391・4105

RATA
ION



**MURATA
FASHION
COORDINATE**
Revillon
FOURRURES

北風と仲良くなりませんか
暮れから新年にかけては、何かとパ
ーティなどの集いが多くなりがち。
そんな時、毛皮のコートが一枚あれ
ばどんなに重宝することか……。
いいものをいつまでも大切に…それ
がムラタの願いです。フランスのレ
ピヨン社との提携技術による毛皮の
数々をムラタでお選びください。

写真はさんちか広場でのムラタ毛皮コレ
クションより



真珠・貴金属
毛皮・婦人服

ムラタ

さんちかレディスタウン
☁神戸 (078) 391-3886

12月 目次

これは神戸を愛する人々の雑誌です
 あなたのくらしに楽しい夢をおくる
 神戸を訪れる人々にはやさしい道しるべ
 これは神戸っ子の手帖です

表紙/小磯良平

セカンドカバー/COLLECTION (12) / 中西 勝

7 神戸っ子75 / 平岡基子 / 末広光夫

11 ある集い / 赤舛社

13 コウベスナップ

14 神戸っ子ギャラリー (24) / 小磯良平

16 神戸のディテール (30) / 石阪春生 / カメラ・杉尾友士郎

23 わたしの意見 / 永尾辰弥

25 随想三題 / 小松益喜 / 小倉啓子 / 矢野恵一郎

28 ある集いその足あと / 赤舛社

30 連載随想 / 神戸の女は日本一 (6) / 華房良輔

32 随想 / 永田耕衣

34 インタビュー / 真帆しぶき

37 経済ポケットジャーナル

38 キャンペーン ファッション都市神戸を考える (6)

44 浜野安宏 / 伊藤 誠 / 新谷珠紀 / 高月昭子 / 林愛艶

46 ファッション市民大学講座から / 中内 功

49 地域との対話

54 座談会 / 大フィル、世界を翔ける

55 特集 / 世界からの便り / フランス / ドイツ / アメリカ / タイ

68 コウベファッションズポット

74 異国情緒神戸 / カメラ・山口、清

105 神戸の催し物ご案内 (12月)

106 話題のひろばから

110 KFS ニュース

112 動物園飼育日記 (114) / 亀井一成

117 技術ジャーナル (103) / 諸岡博照

118 神戸を福社の町に (24) / 橋本 明

120 ここに残るOLDKOBE (最終回) / あおばしげる

122 ファッションエッセイ (2) / 寺井秀蔵

127 神戸の集いから

128 プロフェッサーPの研究室 / 岡田 淳

130 ニューヨークからのたより (28) / 竹田洋太郎 / え・たかはしもう

132 淀長立見席 (47) / 淀川長治

134 女性百景 (41) / H・ジュニア / え・浅野俊一

136 びっといん

139 神戸百店会だより

140 ポケットジャーナル

144 連載小説 まだ遅くない (最終回) / 葉月一郎 / え・小西保文

160 ボエムドコウベ / 灰谷健次郎

162 海船港 / 大衆客船「フェラスカイ号」

カメラ / 米田定蔵 / 藤原保之 / 立山 彰



7つの石 TATSUO KAWAGUCHI

異人館のある北野界限に生れる

欧風スタイルの
ミニイショッピングセンター **キングスコート**

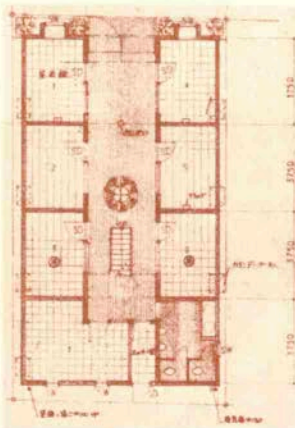
来春open / 現在テナント募集中



● 外人クラブや歴史の洋館が建ち並ぶ高級住宅地の中、ミニイショッピングセンターキングスコートが来春オープン現在テナント募集中です。もはや欧米ではビルの中のテナントは時代おくれ、オープンエアスペースの中のショッピングは多くの人を集めます。

● 建物は南仏調の中庭式広場を設け、各店舗は2階倉庫付、内外装共すべてトータルファッションで仕上、看板にあなたの命名した店名を書き入れ店内のアスプレーをすればもうあなたは一閣一城の主人です。

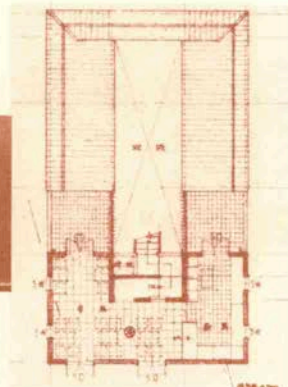
● 友人と組んで、又他で働きながら自分の店を持ったり、山の手の支店に、ショールームに、サラリーマンの脱何々等、小資本で一流店の仲間入り、商品仕入と敷金を合せても500万円以下で御自分の店が開店できます。お早めに下記の所にお申し込み下さい。



平面図 1F



平面図 2F



- 敷金 210～330万円マテ 冷暖房器付各種個別メーター等全て完備、ファッション関
- 家賃4,500～48,000円マテ 係テナント歓迎。夜間営業可能 (坪数は倉庫別3坪カラ)

申し込み先 (有)キングスコート (078) 241-1152
(株)丸林住宅 (078) 341-2515

(所) 神戸市生田区山本通り2丁目111

☆わたしの意見

スマートさと

あたたかさ

永尾 辰弥

△朝日新聞神戸支局長▽



大阪・曽根崎新地の片隅に、はたちを過ぎたばかりの姉妹でやっている店があった。住まいは神戸・石屋川のあたり、大阪の店は、二年ほどで閉じた。最後の夜、ハイボールをあげながら聞いた。どっちがよかった？神戸と大阪は——口をそろえて二人はいった。「そもそも神戸。スマートで、あたたか味があった」。瞳の中に見たのは、六甲の山なみ、中突堤の霧笛。ロマンチックでカッコええやないか。負けました。以来、神戸は恋がたき。その神戸に職場を持って二年余。以前のデスク時代をふくめると、倍以上のおつきあいになる。おかげさまで神戸の水が五臓六腑にしみわたり「スマートであたたかな」わが身になりました。

神戸の目玉——三宮、元町が近ごろ、猛烈な勢いで一層スマートになってきている。三宮センター街かいわいはどンドン西へビル化が進む。戦争直後、人通りを誘うため、店主が家族や従業員に買い物かごなどを持たせて通りを往復させた、なんてとても信じられないことになった。元町通りの改装も、同じく「光は東方から」。

スマート度が高まるにつれ、心配なことが起ろうとしている。かつての商店主が、りゅうとした社長さんになって、店にはすました女店員しかいなくなったら。店先から神戸弁が追放されて、東京——銀座のムードしかないことになったら。

近ごろ、三宮でも元町でもない、いわば場末の町を歩いている。エプロン姿のおばさんがてんぐらをつまんだり、しわがれ声のにいさんが面白おかしく客を呼び込んだり。そこは商店街でなく、むしろ市場。次元が違ふことは承知の上で、そこにある「あたたかさ」に心ひかれるのである。

スマートさとあたたかさ。ひょっとしたら、この二つは決して両立しないものなのかも知れない。神戸っ子はその両立という至難のわざを、これまで上手に育ててきた。ところが、近ごろの神戸は、前者を追いあまり、急速に後者を失おうとしているのではなからうか。

オリエンタルクリスマス グランドパーティ '75

と き○昭和50年12月20日(土)

ディナー&ショー(17:30~20:30)

大人 20,000円 小人 10,000円(税サ込)

ダンスパーティ(22:00~MIDNIGHT)

お一人さま 15,000円(税サ込)



出 演○朝丘 雪路

○ミュージカルアカデミー

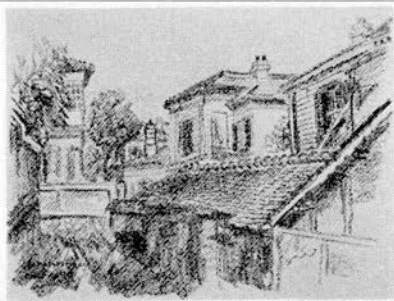
抽せん○全日空で旅行招待ほか豪華景品

ご予約・お問合せ

オリエンタルホテル 宴会課又は企画宣伝課

☎(078)331-8111 内線250・260, 227

随想 三題



え・小松益喜

絵に思う

小松 益喜

△洋画家△



絵には诗情のあることが最も大切だと思う。先輩に「诗情はあるがもっと対象をしっかりと描きな

さい」と注意されて、それから対象の追求がはじまった十年間はその闘いに終始した。そして『英三番館』が出来た。だが哀しいことに诗情がうすれていた。これではいけない、これではいけない。诗情こそ絵の生命だと感じだした。诗情は画家が対象に感動して描くところから生れるという結論も出した。そして十年、『灰色の家』や『赤煉瓦塀の家』に诗情を出した。そして『桃色の家』にも诗情は出た。だが時々頭をもたげて来る物、即ち対象への関心が邪魔をする。対象が描ける事を捨てても诗情が描けるようにならなくてはいけないと感じはじめた。そこで対象を捨てても対象物が描けて诗情の出ることを追求することがはじまった。そこでまた十年の歳月が過ぎていった。絵を生活の糧とする者の辛さが身を切る様に迫って来る。これとも闘わねばならなかった。

そして最後の正念場と思わせる場所がみつかった今年、春夏秋冬の四部作を描こうと決意して、冬の制作を終えて海外旅行に出た帰って来てさあ描こうと思って行ってみるとその建物の前の樹を畑を作っている男が切り払ってしまっているではないか。ああ哀しいと思わず叫んだが、樹は枝を払うだけでなく元から切られてしま

っているのだ。もう三、四年はまた駄目になってしまった。じゃあ仕方ない。ま、山本通りへ帰って『門兆鴻氏邸』を描きはじめたこの困難なむつかしい場所で诗情を出すという事のむつかしさが目に見えるように明らかだがそんな事はいつていられない。七十一歳の記念にこの場所で、自己の主張を表現するまで頑張ってみようという情熱にかられて制作ははじまった。

雑用が時々押しかけてくる。こいつは職つ飛ばしてしまえばよい。もう何物の介入も許さない制作に打ちこむのだ。非常にこまかな煉瓦の一枚一枚もかいた丁寧な素描を描きあげた。しかも一気加勢に朝の八時から夕方の六時まで昼食抜きで頑張つて素描もかいた。緊張し張切った日々が続いている。歯を喰いしばつてもやらねばならぬ。必ずやるぞ、必ずやるのけて見せるぞと意気込んでいる。午前中は去年一年がかりで描いて诗情がたりないので止めた出品画をこれも诗情が出るまで描きぬこう。これも遠景には一寸诗情が出かかっているのだからこの氣持を延長すればよいのだ。この絵は二年目がはじまるわけだ。絵には相当の『こん』は出ている。これを诗情にまで持上げることだ。来年はこの二枚に打ちこんで行くのだ。制作意欲は充分あるし、身

体も元氣だし、あとは雑用を払いのけていけばよい。そして天候はどうにもならないから、これだけは運を天にまかせざるほか方法はない。風景画家の哀しみはここにも一つある。雨に降られてはさっぱりだ。雨が降れば家に画集がたくさんあるので名画の模写をやっている。生活にもゆとりが出来たあとは自分の健康に頼る他はない。やるぞやらねばならぬし、またやるのだ。ただ一途に絵に打込んで行けばよいのだ。

この意気、この情熱には天も決して防害はしないと。いや雨の降るのもよい。家で模写するからちっともかまわない。自然の法則には勝てないのだから。天気よ続けノ雨も降れ、私はかくぞ描いて描いてかきまくろう!

可愛い女

小倉 啓子

△劇団神戸▽

安部公房作、ミュージカル「可愛い女」。この作品をはじめて読んだ時、演りたいなと思ったんです。もちろん他のどの役でもなく、主人公「可愛い女」を……。

三人のまるで違ったタイプの男達——金貸しのけちん坊おやじ・ス・マートな泥棒の頭目・純情で少し

鈍な万年平刑事——に次々に求婚され、そのどれも断り切れず「はい」といってしまい、女房三役を演じて天手古舞。そうしているうちに、いがみあっていた亭主共三人を仲良しにさせてしまう。それでいて決してお色気溢れる悩ましい女ではなく、やっぱり可愛い女、そんな可愛さに憧れたというのか、三人の男性の熱烈な求婚に憧れたというのか、ともかく演じてみたくてしかたがなかったのです。

ところが、ところがです。いざその役をもらってみると可愛さに憧れるのとその可愛さを演じるのでは大違い。演じずに持ち前のものを出せと仮りにいわれたとしても、私自前の可愛さなんてとてもじゃないが文化ホールの舞台から客席のうしろまで届く様な代物じゃございませぬもの……。それに加えて今回はミュージカル。まづ歌——いつもなら気分が乗れば台詞の間を伸ばし、粘って芝居するところを、気持ちで歌えとは言われるものの、口惜しいかな存在するリズム。前奏が流れる。歌い出す。アレ、間違えた。「すみません、ちよっとわかりません」音楽担当の西山毅さん曰く「なんですか?」そんなこと言ったってそれがわからへんから苦労してると心中ぼやきながら「すみませ



「可愛い女」の小倉啓子<右>と松岡直樹

ん。」もう一度お願いしまーす」次に踊り——いかに今岡バレエ団の皆さんがカバーして下さっても、普段のレッスンは不足は隠し切れるはずがない。これからはもっと真面目にレッスンをしようと思いつつ、せめて手足の順序だけでもまちがわない様にと、右手左足、左手右足と悪戦苦闘。役づくりのポイントであったはずの「可愛さ」をどう解釈し、どう演じることができるか、とうとう迷ったまんな幕が開いてしまい、そしてともかくも幕はおりたのです。でも「可愛さ」について考えるところ、今回の作品だけに限らず、女として一生持ちつづけなければいけないテーマのように思うのです。これからも、やっぱり私は悪戦苦闘しながら芝居を続けていくだろうと思います。ひよっとして、ミュージカルなどという途轍もなく大きな目標にかじりついている

私が、いかにも未熟で、その意味で「可愛い女」に見えたとしたらそれでもいいなと思いつつ次の役づくりに思いをめぐらせているところですよ。

努力と信頼

矢野恵一郎

△鷹匠中学校教諭▽



世の中には、良きにつけ悪きにつけ「予期せぬできごと」ということは多くあるのでしょうか、

今回の私に対する神戸市文化奨励賞ほど私自身にとっての驚きはありませんでした。今日までの私の人生にとっても最大の「予期せぬできごと」になりました。それにしても、現場の一教師に、それも当然するべき事をしただけの私に最高の評価を与えて下さった選考委員の方々から感謝の気持で一杯です。

受賞の発表の日、合唱部の練習に音楽室に行きますと、生徒がいつせいに立ち上り「先生、おめでとう！」。そして黒板一杯に全員の手で寄せ書き風に心のこもった

祝福のことはや絵がいっぱいに書かれているのを見た時には思わず胸が熱くなるのを覚えました。同時に「私は本当に幸せ者だ。最高に幸せな教師ではないだろうか」という実感をかみしめました。

私が本校に赴任したのは昭和三十八年四月、その前は北区の八多中学校に三年間、更にその前は長野県の中学校で教員生活をスタートしたので、本来理科の教師でありながらずっと合唱部の指導を受け持つて来ました。前任の学校でも生徒は大変熱心な努力を続けましたが、少しずつ経験を重ねて、本格的にコーラスづくりに取り組むようになったのは、本校に着任してからの生徒との「出会い」にあるように思います。

最初は僅か十三名の女子部員しかいなかった合唱部ですが半年ぐらいたの間にも男子も十数名加えた六十名ぐらいたの部に育って来ました。私から言うのも変なのですが、以来、合唱部の生徒は本当に立派に自分達の進むべき「道」を正しく歩き続けて来ました。合唱部には「心のハーモニー」というモットーがありますが、今ではこのことばをわざわざ意識しなくてもごく自然に先輩から後輩へと受けつがれ、生徒どおし、あるいは生徒と先生の間の一つの伝統となつて根をおろしています。私がこ

の問いちずに貫いてきた信条は、何よりも「努力と信頼」これ以外ありませんでした。私も生徒もこれ以上はできないというぎりぎりの所までの努力、一方ではこのひたむきな努力の中から生まれてくる信頼、それはもはや先生と生徒というものを越えた人間同士の信頼、つまり人間愛であるように思います。これがなければいくらマンツーマンで教えても本当の指導とは言えないと思つてやってきました。早いもので本校に来てから十三年目。その間にNHK音楽コンクール、全日本学生コンクール、MBSコンクールで全国優勝十回という記録をいつのまにか刻んでいました。遠近を問わず、コーラスを通して他校との交歓も盛んで、コーラスの輪(和)にも通じるをを広げていこうという願いは少しずつ着実に根をおろしています。今でこそ音楽の授業を受け持たせて貰っていますが、私は音楽の専門家ではありません。ですから私から生徒を取ってしまったら何も残りません。受賞におごることなく、受賞を期に更に精進して、生徒とともに歌い続け、いい音楽を作っていこうと思います。それによって少しでも生徒のために、ひいては神戸の文化の向上に役立つことができるならこれ以上の喜びはありません。

□ある集いその足あと

赤艸社 〈せきそうしゃ〉

赤艸社という名の……

アトリエの赤い屋根が、六甲の連山である熊内の山の中腹の緑の樹間に見える、そのコントラストから、亀高先生と親交のあった歌人奥屋熊郎氏の示唆でつけられた名前であると聞いている。艸の字は歌人の感覚なのだろうか、又はネオクラシズムとでもいうのか、草の字の原型なのだそうです、何か万葉の匂いさえ感じられて私たちの気に入った名前となった。

だが、このごろの人にはこれを正確に読んでくれる人が少なくて困っている。窮余の策でポスターなどにはSEKIOSOHAとローマ字の振り仮名?をつけたりしている。でも私達はこの名前、五〇

年間続いているこの名前と字に愛着をもって。漢字の簡素化はいいことだと思ふけれど、今さらこの名前を変える気は先生も私たちも一人もなと思う。「赤艸社」を、漢字制限時代の例外として通させて下さい。

(H・F)

赤艸社と縁の下の力持ち

亀高文字・渡辺一郎指導と展覧会のポスターに書いてあるが、もう一人の先生がいる。内わのものや周辺の人たちはよく知っていることだ。それはみよ子先生、正確に言えば瀬尾みよ子先生。亀高文字先生の長女である。昭和のはじめ十九才の若さで当時は泣く児もだまった帝展に入選して一躍天才少女とうたわれ、その後帝展や槐樹社、朱葉会などに連続して作品を発表し画壇に確かな地歩を築いた。今でも当時を知っている洋画ファンの間に忘れられない記憶をのこしている。キビシ過ぎるほ

どの作画態度は雑事の片手間を許さないのかもしれない。私たちがガッチリ支えてくれていた力持ちよ、もうそろそろ縁の下から出て来て下さい。

(T・N)

醉芙蓉(すいふよう)

亀高先生のお庭は赤艸社のモチーフの源泉です。そして気おけない手近の写生地でもあります。先生が丹生こめて作っていられる四季の花々は先生ご自身の制作の主なモチーフなのですが、おけいこ日には私たちも同じものを描くわけです。先生の数々の佳品を見た眼で同じものを描けばおのずと腕も上るわけ(という計算)です。

つい先頃までは高く伸びた酔芙蓉の幾株かが庭に入ってくる者を圧倒する程の迫力で花をつけていました。春は水仙からはじまって、パンジー、アネモネ、けれど、初夏には文字先生の数々の名作を生んだあじさいが庭いっぱい、そして夏の終りの酔芙蓉、秋の小菊と、まるで廻り舞台のように訪れる者を楽しませてくれます。雑然と自然のままに伸びた木や草の中に画架を据えて、自然を相手に画面を構成するとき、又時々見に来て下さる文字先生のアドバイスを聞くとき、私たちは自然のリズムに溶けこんだ境地にひたることのできるのです。(E・T)



第38回赤艸社展(10/21~26)より。

(上) テープカットする亀高文字さん。右は長女みよ子さん。(下) 赤艸社のうたを歌う会員たち 県立近代美術館にて

神戸の新しいナイトスポット (2)



COFFEE TIME

神戸市生田区栄町通 3丁目44 TEL 331-1605

店舗づくりのプロフェッショナル

信頼される

**KOBE
NIKKEN**

(株)神戸日建

神戸市葺合区御幸通 3丁目1

PHONE 078(251)3525(代)



□連載ずいそう⑤

『神戸の女は日本一』

—なんてか　いうたら—最終回

華房良輔　△コラムニスト△
え・貝原　六一

十一月から十二月にかけて、兵庫県立近代美術館で国吉康雄展が開かれる。ぼくは国吉の描く女が、なぜか神戸女の像と重ってしかたがない。むろん、彼の作品のモデルはアメリカの女であり、神戸とはなんのゆかりもないのだが、初期の肉感的で健康的な女も、中期のものうげで、やや退廃美を感じさせる女も、ともに神戸の女を感じさせるのはなぜか。これについては申しのべたいこと山ほどあるのだが、専門的知識をひけらかすようで気がひけるので省略させていた。ただ、神戸女はヨーロッパ文化を自然に吸収してはいるが、けっして媚びてはいないこと、健康と倦怠を奇妙に同居させていること、そして色彩感覚が一段とすぐれていることをあげておきたい。

胎教という言葉がある。胎児が腹の中でよい影響を受けるように、妊婦が心をおちつけて行いを正しくすること、だそう。そうしたからとて、



どれほどの効果があるものやら。妊娠中にモーツアルトを聴き、美術全集のページをくつてみたところで、胎児に影響あたえるとも思えぬが、生まれて後の話となればべつ。小さいうちから、年齢に応じた美しいものを見聞きしていれば、その人の芸術的感覚醸成に役立つこと、疑いない。

しかもだ、美を感じ、美の雰囲気にかこまれていれば、自然と肉体的にも美しくなってくるのだ。精神だけの問題ではないのがおもしろい。

男は三十過ぎれば、自分の顔に責任を持つていう。つまり、親ゆずりの顔ではなく、後天的に顔が造り変えられていくのである。むろん女もおなじことで、まわりの環境が顔に及ぼす影響は大きい。

いやしい性格の女の顔はいやしく、知的な暮しをしていれば必然的に知的な容貌となる。これ、科学的にも証明できるのだ。めんどうだから、い

まは証明を省略するけれど。神戸の女性が、身心ともみがかれ、いっそうその光を増すのは、美しい町並と、芸術を愛する環境、そして前号までに縷縷と述べてきたように歴史的に社会的に美人を産出する基盤をもっていたことで、女性もみずからの美の創造に対する刺激がじゅうぶん整っているのだ。神戸に育てば、性格は明るく知性があるて美的感覚をもてることに決まっておるのであります。

神戸は、日本一美しい町だと思う。京都がきれい、いや高山だ、倉敷だ、などとオクニ自慢は多いが、灰色にくすんだ町並みはたしかに幽玄の美を秘めてはいようが、神戸の美は解放的な美であり無限の空間にむかって伸びきっていく美しさなのだ。だから神戸の女は内にこもらない。ちよいと昔までは、白い砂湾と松林が東西に拡がっていた。ミナトと船も絵になる。四季の色合いを変え山の色も自然の芸術だ。百万弗とまではいかにいにして、神戸の夜景の美しさはどうだ、八十万弗くらいの値うちはある。こんな美しいところにいけば、身心ともに美しくならない筈がない。神戸の飲み屋、といってもスナックバーへ行っておもうのだが、やはり大阪京都と雰囲気異なるひとつは、ナマの演奏が非常に多いということ。これ、神戸人が、インスタントやカンズメの料理じゃない、ほんものの料理を好むのとおなじくたとえ少々シロウトくさくても、ナマの音楽を好むという高尚性にはかなならぬ。兵庫県というか、阪神間というか、神戸周辺はまた、日本で一番美術館の多いところである。そして、遠方からでもわざわざ駆けつけたくなるようなすぐれた企画もあって、ほんと、神戸の人が羨ましい。これ畢竟神

戸人の芸術愛好度の高いことを示すもの。

水深くして魚集まり木繁りて鳥来たる、君子友と得るの道ではないけれど、美しい街と、すばらしい方々ばかりがお住みになっていらっしやる神戸には、やはりよそからもすばらしい方、美しい方が自然に集まって行かれるよう。まア、そのうちに京阪はおろか、九州からも北海道からも、美人で頭も性格もいい女性は、みんな神戸へ神戸へと集って行くかもしれぬ。そのうちに、いい女は神戸以外で住んではいけないという法律ができるやもしれぬ。——とまア、こう、なんだかんだ、神戸女の良いところ、あることないこと真偽とりませ、いささかむりやりデッチアゲてきた感じもするけれども、これ以上はネタがない。さすがに、お世辞のうまい私めも、いいつくした感じであります。「あらッ、神戸女は日本一というの、お世辞なんですかッ」と、にらみつけられそう。神戸の女がにらむのはまたコケティッシュで、これがよろしい第一、怒っても陰湿さがないから。「ええかげんにせんかい。神戸女はたしかにええ日本一かもわからん。そやけど、こんな神戸女を生み出し、育てあげたのは、神戸の男の努力が半分あるんやで。いや、努力というより、神戸の男が、みめ麗わしくようできたのばかりやから、女もようなったんちがうか？」

神戸の友人はそういう。いうては悪いが、ぼくの友人より、女の友人のほうが好きですね。それも若いのが。けっして、みめ麗わしくはないし、それほどよくてもおらんけど、神戸の女性に好かれるためやったら、なんでもする、す。お世辞もいいます。神戸の男、ぜんぶ敵にまわしてもよろしいで。